

MSZ-010

ZZ GUNDAM

ZZガンダム

第一次ネオ・ジオン戦争において、アーガマ隊に新たに配備された可変合体MS。
 ネオ・コア・ファイターを中心に3機のユニットがドッキングし、MSを形作る。
 各ユニットがジェネレーターを搭載するためMSでの出力は破格であり、
 ハイ・メガ・キャノンをはじめとする複数の大出力ビーム兵器を使用可能。
 先のグリプス戦役で消耗したエゥーゴとアーガマ隊にとって、貴重な戦力となった。



全高	21.11m
本体重量	32.7t
生体重量	68.4t
装甲材質	ガンダリウム合金
推進力	7,340kW
機体重量	101,000kg
推進力	16,200m
武装	ハイ・メガ・キャノン×1 ダブルビーム・ライフル×1 ダブルバルカン×2 ハイパービーム・サーベル(ビーム・キャノン兼用)×2 肩砲21連装ミサイルランチャー×2 シールド×2 ジェドー・アーシタ 他

MS Bible 30

CONTENTS

- | | | | |
|-----------------------------|----|---------------------------------------|----|
| ■ 戦場レポート
新たな力、出現! | 01 | ■ MS戦記
ZZガンダム 戦時の記録 | 16 |
| ■ MS機体解析
機体解説
武装解説 | 05 | ■ MS進化論
ZZガンダム 開発系図 | 18 |
| ■ 関連MSラインナップ
ZZガンダムと関連機体 | 10 | ■ メカニック・ジャーナル
Z計画 | 24 |
| ■ MSパイロット
ジェドー・アーシタと周辺人物 | 12 | ■ ガンプラ ジェネレーション
分離・変形・合体機構を忠実に再現!! | 34 |
| | 14 | | |







『機動戦士ガンダムZZ』第11話「始動!ダブル・ゼータ」より

新たな力、出現!

運用MS エウゴ/アーガマ隊

エウゴの中核的存在として艦隊方に認められていたが、グリプス戦役最終局面で多くのMSと人員を失ってしまった。それでもシャングリラでジュードをはじめとする少年少女が新たな乗組員となり、さらにZZガンダムが補充されたことで、かつての活を取り戻しつつある。



ARGAMA
アーガマ



MSZ-006
Z GUNDAM
Zガンダム



MSZ-010 ZZ GUNDAM
ZZガンダム



FXA-07GB
NEO CORE FIGHTER
ネオ・コア・ファイター



CORE TOP
コア・トップ



CORE BASE
コア・ベース

ネオ・コア・ファイターを中心にコア・トップとコア・ベースが合体してMSとなる。出力に余裕があるため、機体の能力をビーム兵器を使用可能だ。

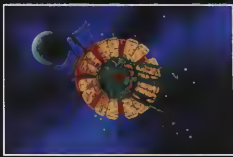


急速に台頭するアクシズ(のちのネオ・ジオン)に対して、ほぼ単独で挑まざるを得なかったアーガマ隊。しかしドック艦、ラビアンローズとの接触によって最新鋭MSが引き渡されることになった。AE(アナハイム・エレクトロニクス)社の主導する「Z計画」から誕生したMS、ZZガンダムだ。おりしもアーガマを追撃するエンドラがハンマ・ハンマとR・ジャジャを差し向け、さしものZガンダムも窮地に立たされていたところである。この絶体絶命の状況を、ZZガンダムはその秘められた能力を駆使して脱することができるのか!?

戦闘宙域

サイド1の1バンチ・コロニーを脱したアーガマは、ラビアンローズと接触すべく、合流ポイントに向く途中、大小の岩塊が浮遊する宙域に足を踏み入れた。あとに迫るエンドラを目をそらすように画像したのだ。ところが艦内に拘禁していた捕虜(エンドラの副官、ゴットン・ブー)が人員を盾にして脱出する騒ぎが持ち上がり、仲間を助けようとするZガンダムで出撃したジュードがハンマ・ハンマに見えられてしまった。

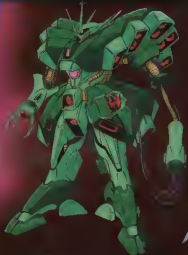
ゴットンの捕虜となったイーノ・アッパーだが、かろうじて救出したところをラビアンローズに目撃。ZZガンダムのAパーツ(コア・トップ)とともにジュードの元へ急ぐのだった。



■ドック艦、ラビアンローズ全貌

ハマーン・カーンに忠誠を誓うマッシュマー・セロが指揮を執る部隊、サイド1制圧の途中に遭遇したアーガマを追撃するが、マッシュマーが失敗続きのため、監視役としてキャラ・スーンが派遣された。

運用MS アクシズ/エンドラ隊



AMX-103 HAMMA-HAMMA
ハンマ・ハンマ

アクシズが開発した新型MS。機体はニュータイプ能力の低いパイロットでも使用可能な有脚式攻撃艇であり、Zガンダムを中破に追い付いた。



AMX-104 R-JARJA
R・ジャジャ



AMX-003 GAZA-C
ガザC



AMX-006 GAZA-D
ガザD



ENDRA
エンドラ

HISTORY TIMELINE 物語の展開

■エゥーゴ上層部の無謀な命令

ZZガンダムを奪得し、ラビアンローズで補給と改修を受けたアーガマに対して、エゥーゴ上層部はハマーンの拠点である小惑星基地アクシズへの攻撃を指示する。アクシズの地球侵攻を阻止するためだったが、この命令がアーガマ内に新たな混乱を巻き起こすことになった。

実はジュードの妹(リナ・アシュタ)がアクシズに囚われており、最愛の妹を助けたいため、ジュードは断然でアクシズ潜入を決定する。



潜入時に出会った女の子(エルピー・ブル)は、ジュードとこの戦乱の最中に少なからぬ影響を与えている。



命令の甲斐なく、地球連邦政府連合の家賃を返すアクシズは地球へ降下。戦いの舞台は宇宙から地上へと移ることになった。

MS 機体解析



MSZ-010 ZZ GUNDAM
ZZガンダム

合体・変形機構と 圧倒的な火力を誇る 「Z計画」の到達点

MSZ-010 ZZガンダムは、U.C.0080年代後半に登場したハイエンドMSの代表格であり、当時のMSの恐竜的な進化を集約する機体ともいえる。エゥーゴとAE（アナハイム・エレクトロニクス）社の共同プロジェクト「Z計画」において開発された本機は、3機の戦闘／攻撃機からなる合体・変形機構と、ハイメガ・キャノンに代表される圧倒的な大火力を特徴とする。それらの機体特性は、構造の複雑化や整備性の低下を厭わずに性能を追求した設計思想の賜物であり、大型・大火力化に傾く当時のMS開発の潮流を表している。一方で、本機の性能は同時期のMSのなかでも群を抜いており、第一次ネオ・ジオン戦争におけるエゥーゴのフラッグシップ機として活躍した。



MSの戦闘を繰る大火力を有した決戦機ともいえる機体で、MSZ-008 Zガンダムと並ぶAE強化ガンダムタイプMSの最前線だった。



第一次ネオ・ジオン戦争においてアーマーガンダムに配備され、ガンダムチームの中核としてエゥーゴの戦いを支えた。

機体比較



FX-78-2
GUNDAM
18.0m

MSZ-010
ZZ GUNDAM
21.11m

MSZ-008
Z GUNDAM
18.85m

機体サイズを20m程度とすることが目的のひとつで、開発面ではZガンダムと同程度に留まっていた。一方、スマートなZガンダムとは異なる重厚なプロファイルを持ち、同じ「Z計画」の最前線でありながらその外観は対照的だった。



周スケーリング
パイロットとの関係

MS 機体解析 機体解説

第三世代MSと第四世代MSの特性を兼ね備えたZZガンダムの複雑かつ完成度の高い機体構造

ZZガンダムの特徴のひとつは、合体・変形機構を備えた第三世代MSとしての特性にある。加えて、本機には1/4サイコミュシステムのハイオ・センサーが搭載されており、第四世代MSの条件も満たしていた。本機のハイオ・センサーはZZガンダムに搭載されたものの改良型で、脳波制御によって操縦系を補助して機体適応性を向上させるシステムだったとされる。それらを盛り込んだ本機は、他に類を見ない複雑な機体構造を抱えながらも、第三次オ・ンオン戦争における戦いの高性能機として結実していたのである。

■頭部

頭部はV字型アンテナとデュアル・センサーといわんがたムタイプMSの特徴が見られる一方で、本機独自の設計に基づく特殊な構造を有する頭部ユニットにハイ・メカ・キャノン内蔵した構造がそで、一般的な地球連邦軍系MSではメイン・カメラが位置する頭頂部前縁（顔部分）に砲口が配されている。また、大出力のメカ粒子砲を内蔵しているがゆえに本機の頭部ユニットは消耗率が高く、アップグレードの頻度も高かったといわれている。



頭部の外観は旧来のガンダムタイプMSの印象を受け継いでいるが、V字型アンテナは長細く1対ずつとなっている。



本機の兵器のなかでも最大級の大砲が配された部位で、一般的なMSとは異なり、砲口が大きく目立つ。



頭部は曲線的な形状が特徴で、フェイス部はRX-78系のそれに近い。V字型アンテナは通信用を兼ねる。

■胴体 コクピット

胴体はコア・ブロックを中心に各機が接続される部位で、合体・変形機構が集中するため、極めて複雑な構造となっている。しかし、カンタリウムYを使用した多重空間装甲（宇宙線や放射線を遮断する特性も有する）やMS形態時の耐爆性を考慮したため、

シールド配置などにより、優れた堅牢性を得ている。また、トングキック時にコア・ブロック形状となるコクピットは全天周モニターとリニア・シートが使用可能となり、当時の一般的な球形コクピットとは同等の機能を有していた。



左はコクピット・ハッチの内部構造で、白い鋼鉄製部も見える。装甲は鋼製のなヒュームの部材にも属していた。

主武器となるダブル・ビーム・ライフルを備えるZZガンダム。この武器は、全機体の中で最も強力な武器といえるが、低弾速がデメリットとなり、スラスター威力の増強で、機体性能は大きく向上した。



MSZ-010
ZZ Gundam
Rear view

■胸部

胸部は一般的な作業部としての機能に加え、胸部上面に設けられた「ソルター・スラスタ」アーマーによるAMBACと大気圏内での空力制御を担っている。また、胸部前後部と前胸部にはウェポン・ラッチを備え、追加兵装の装着が可能となっている。



上は発射中の前胸部で、ユニットが回転してモニタレーターが現れる。ほかの顔位とは異なり、縦向き構造を有する。

胸部前面に見える長方形の部品はウェポン・ラッチ。縦向きラッチは通常、シールドのマークに隠れる。

■腰部

腰部には腰部がフロックと回転する複雑な変形機構が設けられているが、そのうえで機体を支える歩行ユニットとして高い安定性を誇り、複数のスラスタを備えた機動ユニットの役割も果たした。また、装甲形状の一部にはAE社製カンタムタイプMSとの類似性も見られる。



上は定常の構造。また、発射前には変形機構が「ハーニア」と思わせるノズルが設けられている。

突き出した腰部装甲は「ニー・クラッシャー」もしくは「ニー・ブロック・アーマー」と呼ばれていたようだ。



■バックパック

背部に搭載されたバックパックは通常のMSのものよりもはるかに大型で、大小6基のメイン・スラスタに加えて分散配置されたセンサー・ラッチのひとと複数の固定兵装を備える。また、このバックパックは高度にユニット化されており、機体も容易に行き来。



バックパックの大型化に加え、機体各部に32基ものセンサー・ラッチが配置され、機体各部のセンサー・ラッチを確保し、高い機動性を発揮した。



バックパックは重量増に大きく影響を及ぼすため、独立したユニット構造となっている。



巨大なバックパックは本機の機動のりとつ、分岐時の安定性を、MS形態ではターム・スタビライザーとして機能する。

バックパックを外した状態の機体は、フラットな構造となっている。機体、上体と腰部中央に接続部や構造がある。

■ネオ・コア・ファイター

MS形態のコア・ブロックとなる多目的小型戦闘機が、FXA-07GB ネオ・コア・ファイターである。本機の中核とも言えるユニットで、搭載されたパイロ・センサー・バスターが入力され、サイコミュのシンクロを高める機能も付与されている。



即時能力を持たない従来のイェクシオン・ボルトに代わるシステムの中核として設計された。



機体と変形機構を折りたたみ、機体を引き込んでコア・ブロック形態へと変形する。

シェネレーターを内蔵し、大気圏内での機動性を高める。また、機体として役割も大きい。



コア・ファイター機のコックピットはエカンタムなどに採用されたGRS-34の改良型とされる。



コア・ブロック状態で変形後は、キャノピーがモニター・スクリーンとして機能する。

MS機体解析 機体解説

RX-78とG パーツのコンセプトを発展させた ZZガンダムの合体・変形システム

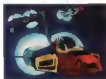
ZZガンダムの構想は、ZZガンダム開発の2年前に存在した「計画1」(プロト)と呼ばれることもある。一端を発するといわれるRX-78ガンダムの復活をコンセプトにコア・プロト・システムの発展を模索したその試作案(概念案)のうちの可変MS発展案だったという。は、もハローの運用思想を取り入れることで多目的戦闘を可能とする合体・変形システムを目標とした。同案は開発競争でZガンダムに敗れて一時棚上げになるも、情勢の変化を受けてZZガンダムとして完成し、合体・変形システムの柔軟性を実戦で証明したのだ。

■Gフォートレス

ZZガンダムを構成するネオ・コア・ファイターとAバーノ・Bバーノの3機が合体した巡航形態がGフォートレスと呼ばれる重戦型機である。かつてのGアーマーを継いで再現した設計になっており、攻撃力だけでなく大気圏内外での長距離巡航能力も強化されている。また、本形態に追加兵装などを施した武装強化型「スーパーGフォートレス」も存在したといわれる。



全高30.13m、全幅16.52mで一般的なMSを大きく上回るサイズとなる。戦艦でのメンテナンス時には天井から吊り下げるケースが多かった。



分離状態の3機はそれぞれが戦闘機として戦闘可能で3機で主力MS一個小隊分の戦力を占拠した



3機からなる合体変形システムは簡単な運用を實現した反面、剛性の低下を招くことになった



水中航行能力も有しており、大西洋アフリカ沖でネオ・ジオンの水圏用MSと水中戦を行った例もある



Gフォートレスで敵勢力圏内に侵入し、MS形態に変形して戦闘を行うという運用も想定されていた

変形シークエンス

分離状態からMS形態への合体・変形は、ネオ・コア・ファイターからの指示によって行われる。合体・変形に要する時間は1秒以上といわれ、右に示した図はそのシークエンスの大まかな流れである



変形に要する時間は、同じく変形MSであるZガンダムよりもわずかに長い。



合体に入る直前に互いに噛み合え、MS形態への変形が開始されるケースもあった



機体の胴体中部と右のネオ・コア・ファイターがコア・ブロックに変形する



コア・ベースからネオ・コア・ファイターが切り離され、コア・ブロックが6パーツに変形する



目と同時にコア・トップからネオ・コア・ファイターが分離し、ほかの2機と合体する

■ネオ・コア・ファイター

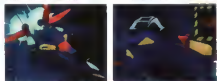
ネオ・コア・ファイターはZZガンタムのコア ノロノ・ヒュームの中核を司り、コア・トップとコア・ベースの分離運用時にはそのコクピット・フロアとなる。全長11.62m、全幅15.89m、重量11.6tで、固定武装として2基のミサイルランチャーとハルカン砲を備える。ZZガンタムを構成する3機の内ではもっとも小型で機動性に優れるが、火力には劣っている。



機体後面に4基のバズラスターを備え、1基につき5,240kgの推力を有する。火力はMSに及ばないが、優れた機動性を誇っていないかった。

■コア・トップ

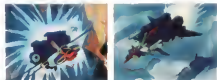
コア・トップはZZガンタムの上半身・A・ハーンとタフル・ヒューム・ライフルで構成される戦闘機で、ほかの2機と同じく大気圏内外での運用能力を有している。全長19.91m、全幅18.52m、重量19.3t、本体重量30.9t。通常は後部にネオ・コア・ファイター・コア・ブロック状態)を連結して運用されるが、緊急時や整備時には機首に設けられた発着コックピットからの操縦も可能である。



コア・トップ機には両肩部にスラスター(推力は各16,300kg)が装備し、コア・ブロックと合わせた総推力は53,580kgとなる。

■コア・ベース

コア・ベースはZZガンタムの下半身とハックバクからなるBパーツにネオ・コア・ファイター・コア・キックした重武装機である。全長22.06m、全幅15.93m、全機重量49.1tで、ネオ・コア・ファイターを除くと全長12.86m、重量37.5tとなる。ハックバクの推力と武装が利用できると、総合的な火力は3機の内ではもっとも強力だったといえる。



3機の内ではもっとも大型だが、総推力は106,800kgにも達する。なお、本誌図ではビーム・キャノンの出力が32MWにまで低下する。



ミサイルランチャーはコクピット直下の機体側面に位置しており、2連装の横装式となっている。



ランディング・ギア



Aパーツ
(コア・ブロックとの連結時)

ランディング・ギア



コア・トップ後方

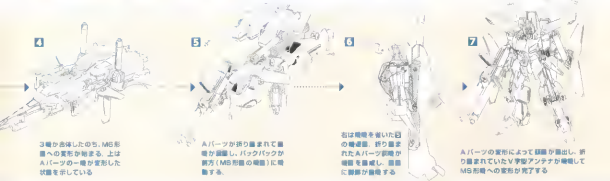


Bパーツ

ランディング・ギア



コア・ベース後方



3機が合体したのち、MS形態への変形が始まる。上はAパーツの機体が変形した状態を示している。

Aパーツが折り畳まれて機体が縮小し、バックパックが前方(MS形態の機体)に移動する。

右は機体を折り畳む際の機体縮小、折り畳まれたAパーツが前方(MS形態の機体)に移動し、機体に折り畳まれる。

Aパーツの変形によって機体縮小し、折り畳まれたAパーツが前方(MS形態の機体)に移動し、機体に折り畳まれる。

MS 機体解析 武装解説

ジェネレーターの分散配置と合体構造によって実現した大出力ビーム兵器の搭載とその威力

ZZガンダムに課された要求性能のひとつに、50MWクラスの大出力ビーム兵器の実装があったとされる。だが、その稼動に必要な出力7,000kW以上のジェネレーターと熱核反応炉をMSに搭載するのは容易ではなく、開発は難航することとなる。しかし、ジェネレーターを両肩部に分散配置したZガンダムの設計を応用し、コア・プロダクトとA/Bパーツのそれぞれに新開発の小型熱核反応炉を配し、計3基のジェネレーターを統合した出力によって目標値を達成。本機はMS単体としては破格の攻撃力を有するに至ったのである。

分離したコア・プロダクトがダブル・ビーム・ライフルに収納。上部にはオブザーバ・センサーを備える。



前部分の六角形のくぼみがハイ・メガ・キャノンの開口で、前部ユニット自体が熱核の構造を併用している。



ビーム・キャノンはバックパック側面のハウジングに収納される。機体部は可動式となっている。

■ダブル・ビーム・ライフル

本機の主兵器となるビーム系連射兵器。小型のジェネレーターを内蔵した2連装ビーム・ライフルで、出力は1基につき10.6MWとメガ・バスター・ランチャー級の威力を誇る(発射の際にエネルギーを抑えることもできる)。連射も可能なが自身の消耗は激しく、200発ごとに交換を必要としたといわれる。なお、後部にコア・プロダクト用簡易コクピットが搭載し、宇宙空間であれば程度の自律航行が可能だったとする説もある。



ダブル・ビーム・ライフルはMS 随時行兵器としては初外れの威力を誇り、本機の戦術能力の大半を担った。



近距離でMSの装甲を穿ちやすさの破壊力があり、一瞬の射撃で複数の敵機を同時に撃破した例もある。

■ハイ・メガ・キャノン

腹部に装備された大型メガ粒子砲で、本機を象徴する固定兵器(「ハイ・メガ粒子キャノン」とも呼ばれる)。出力は50MWで、コロニーレーザーの1/5に相当するといわれる。全ジェネレーターのエネルギーを集中し、新開発のメガ・コンデンサーで増幅して発射することで、戦艦クラスの目標をも一撃で破壊する威力を発揮する。ただし、発射後はパワー・ダウンを引き起こし、機体が行動不能に陥る恐れもあった。



ハイ・メガ・キャノンの威力はMSが装備する火器としてはトップクラスで、他に類を見ない破壊力の源となった。



距離とバレルが短く射撃も速い。しかし、発射時の震動と熱核反応によって近距離で多大な威力を発揮した。

■ビーム・キャノン

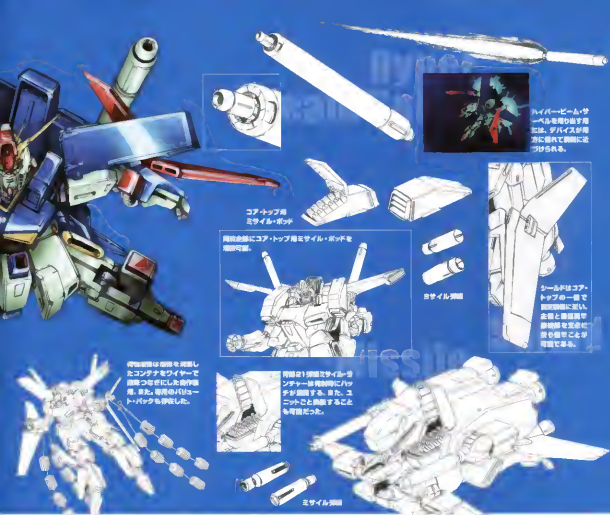
バックパック側面には2基のビーム・キャノンを装備し、自身はハイパー・ビーム・サーベルとの機能となっている(「ダブル・キャノン」[「ダブル・ビーム・キャノン」とも]、ビーム・キャノンとして用いられる場合は出力は1基につき10MWで、ジェネレーター直結型のメガ粒子砲として高い威力を持った。また、機体部は変形機構に付随した可動構造を有しており、広い射界を確保できたと考えられる。



スペース上はダブル・ビーム・ライフルに迫る威力を有する両面だが、便器されるケースはあまり多くなかった。



コア・ベースの主兵器として用いられる例が多く見られた。ただし、両面射撃で威力が1/3程度に低下する。



■ハイパー・ビーム・サーベル

ハイパービーム・サーベルは、ヒーム・キャノンの砲身をデバイスとして用いる近接格闘戦用兵器である(2番の砲身のどちらも兼用が可能)。出力は11MWで、当時のヒーム・サーベルのなかでは飛び抜けて数値が高く、通常のものの数倍の威力を有するといわれた。形成されるビーム刃の長さは空拳型の1.5倍に達するとされ、カンザシウム合金製の装甲を基々と変換することが可能だった。



ハイパー・ビーム・サーベルはほかの兵器とともに本機の強い攻撃力を誇示し、圧倒的な白兵戦能力を支えた。



MSのサイズを壁に上回る攻撃を一刀で断る。この威力を示し、壁MSを一撃で破壊する場面も多く見られた。

■背部21連装ミサイル・ランチャー コア・トップ用ミサイル・ポッド

ハーフバック上部には21連装ミサイル・ランチャー2基を備える。用いられる弾体は「AMA-13S」と呼ばれる熟練演習用小型ミサイルで、ロックオン時に目標のスラスターの噴射物をインプットすることでフレア弾などの妨害を回避できた。また、オプション具装として、両側ウェポン・ランチャに搭載される10連装のコア・トップ用ミサイル・ポッドも用意されていた。



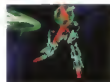
21連装ミサイル・ランチャーの弾体はマイクロ・ミサイルとも呼ばれ、機体を破壊する用途にも適していた。



21連装ミサイル・ランチャーを一発発射するコア・ベース。撃たれた敵機としての火力の脅威を知らしめる。

■シールド ダブル・バルカン

コア・トップの構造と主翼はMS形態時に両肩関節のウェポン・ランチャに装着され、ノールト(「ブレイク・ノールト」とも)として機能する。中折れ式で一般的なシールドに見えて防弾面積は狭いが、十分な強度を有し重要部分を保護するために活用された。また、頭部には左右各3つずつ4基のバルカン砲を内蔵している。これは「ダブル・バルカン」と呼ばれ、口径は60mmと、60mmと90mmの二射ともいわれている。



頭部からのビームをシールドで防ぐZガンダム、敵機のビームの攻撃にも耐える性能を有していた。



ビーム・サーベルの攻撃を受け流すケースがあった一方、グレネードの攻撃を受けて破壊する場面も見られた。



関連MS ラインナップ



MSZ-010 ZZ GUNDAM ZZガンダム

基本能力の
底上げを
図った
強化タイプ



新たな
活躍の場を
獲得した
IFのZZ



重装甲と
高火力を
両立させた
攻撃型MS



■MSZ-010S 強化型ZZガンダム

第一次ネオ・ジオン戦争の最終局面における決戦仕様として、機体のバランス調整を行った改修機。一部装甲の追加やバックパックの大型化。ジェネレーターの出力増強が図られ、総合能力の底上げが図られた。各種追加装備のために本体重量は増加したもののスラスター推進力も増強しているため、機動性はかえって向上している。ちなみに、本機にさらなる追加装甲と武装を施したものがフルアーマーZZガンダムである。

■MSZ-010S ZZ-GR

ハマーン・カーンとの決戦で破壊したZZガンダムを回収し、基盤したBパーツとバックパックを新たなユニットで代替した機体である。Bパーツにはジェネレーターが搭載されており、Aパーツとネオ・コア・ファイターからのエネルギー供給で稼働している。そのためベース量ほどの高出力は望めず、ハイ・メガ・キャノンの使用が可能かどうかどうかも不明。ただし正統Bパーツとドッキングすることで本来の能力を取り戻した。

■FA-010S フルアーマーZZガンダム

強化型ZZガンダムに追加パーツを装着し、総合性能を大幅に増強した機体。ガンダリウムコンボジットを駆使した多連空間銃陣（銃陣内にはミサイル・ボッドやスラスタ、推進剤を稼働）を機体各部に設置。装甲表面には対ビーム・コーティング処理が施されている。さらに頭部にはハイ・メガ・キャノンを新たに1基設置している。これは頭部のもとの同様の火力を割るが、簡易構造のため、使用できるのは1発のみとされる。



火力だけでなく防衛面でも改修。なかでも装甲には対ビーム・コーティングが施され、独特なビームの攻撃にも耐えられる。



コクピット周辺を改修されており、全方向視界モニターとリニアシートを装備。ベース機と比べると機体色が暗くはなっている。



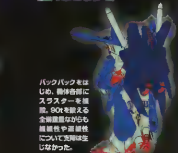
ZZガンダムのフルアーマー仕様は設計段階から考慮されていたらしく、良好な機体バランスを保ったまま、性能向上を可能とした。



機体のZZ-GRに正統のBパーツを装着した機体も強化型ZZガンダムと並び、高火力の本重量においても優れた機動性を発揮した。



バックパックはプロペラントタンクを詰めあがせた高燃焼性。容量は少なく、機体中に推進剤切れを招いたことともある。



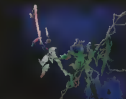
バックパックをはじめ、機体背面にスラスターを備え、80tを超える全重量ながらも機動性や加速性について充分に生じなかった。

本機の実成はZZガンダムの半年前といわれる。そのため機体構成には余裕があり、旧作ゲームはフルアーマーZZガンダムの開発に活用された。

追加装備の機能検証を担当した試験機

■FA-010A FAZZ

フルアーマーZZガンダムの評価試験の一環として試作されたモデル。本機から得た運用データに基づいてフルアーマーZZガンダムの設計が行われた。あくまで検証機のため、機体各部に設置された装備はダミーであり、頭部と胸部のハイ・メガ・キャノンも使用不可。試作時最も実用より品質の低いパーツが使われ、現場では「ハリボテ」と酷評されたとの記録もある。またGフォートレスへの変形や分離機能も搭載されている。



ZZガンダムを模倣したMSとするなら、本機は純粋な火力支援機。ZZガンダムとは根本的にコンセプトが異なる。



外見上の特徴であり、本機の設計思想のなかに隠れた威力を誇るハイ・メガ・キャノン。ZZガンダムのハイ・メガ・キャノンを上回る火力を有する。

同機時点でも専用試験機は用意されており、ベース機の機体設計に活用されていたハイ・メガ・キャノンの代わりにセンサーを搭載している。



分離・合体機構を搭載した試作型ZZ



試作機ではベース機の設計コンセプトを継承。機体各部に高出力ビーム兵器やミサイルを搭載し、機体としての特長は機体の火力を重視した。



ベース機の設計思想を継承した簡易量産機



■MSZ-009 プロトタイプZZガンダム

複雑な構造を有するZZガンダムの機体の検証を目的に製造された試作機。ただし試作段階でコア・ブロック・システムは採用されておらず、上半身（Gトップ0型）と下半身（Gベース0型）がそれぞれ戦闘機として分離する仕様となっている。完成後、テストパイロットによる有人試験中に暴走し、爆発するという事故が発生。この結果を鑑みて、パイロットの保護を目的にコア・ブロック・システムが採用されることになった。



根本的なシルエットはベース機と共通しているが、胸部のデザインに相違点が認められる。とくにバックパックの形状は大きく異なる。



ベース機がGフォートレスと呼ばれる形態に変形したように本機もGアーマー形態に移行可能。MS形態への変形には事前に分離する必要がある。

■MSZ-013 量産型ZZガンダム

複雑な構造が生産性を圧迫することから、コア・ブロック・システムや変形機構を排除した簡易量産機。機体各部の構造は簡略化されたが、武装は豊富でさまざまな。量産機としては独特の火力を有する。とくに胸部に新設された拡張メガ粒子砲は収束率も変化させることでハイ・メガ・キャノンと同等の火力を発揮するほど。ただし実戦で使用した際、あまりの過剰な上半身がパイロットごと吹き飛ばしたとの記録がある。



ベース機と異なり、胸部にハイ・メガ・キャノンを搭載している。ただしこちらは標準仕様で、一部の機体で導入されるのは2機までとされる。



高熱ビーム兵器の移動に高熱カジェネレーターの搭載を余儀なくされ、ベース機で開発されていた開発コストの削減は実現できずに終わった。

MSパイロット——ジュード・アーシタ——

動乱のなかで子どもらしいバイタリティと行動力を示し エウゴを牽引したシャングリラの少年

年戦争に始まった地球圏の混乱は、そこに暮らす人々を追い追した。サイド1・シャングリラもその時勢に巻き込まれたスペースコロニーのひとつ。動乱のなかで苦悩の芽ははかり仕度たちの心は荒んでいった。だが、苦難の時代に生まれ育った少年ジュード・アーシタは、子どもらしい明るさなバイタリティと反骨心をもって道を切り拓き、周らざる巻き込まれた戦いのなかで己の才能を開花させていくことになるのだ。

グリフス戦役が終結した10088年当時、シャングリラでジャンク屋を営んでいたジュードは、コロニーへ入港したアーガマからMS（Zガンダム）を盗み出そうとしたのだが、それを契機にアケツ（のちのネオ・ジオン）との戦いに巻き込まれ、成り行きでアーガマに乗艦することになった。そして、エウゴの1員としてパイロットを務めたジュードは、人々たちの常識を超える自由な行動力でアーガマの戦いを牽引していったのである。



リナの言葉を聴く日々を暮らしていたジュードは、アーガマの乗艦によって運命を大きく変え、エウゴのパイロットとして第一次ネオ・ジオン戦争に身を投じていった。



ジュード・アーシタ

DATA

年齢：14歳 所属：民間人→エウゴ 声優：——（中継特選） 出身：サイド1・シャングリラ 能力：MS操縦、ニュータイプジャンク回収



ヤザン・テーブルから奪った乗出ボットを盗ったことから、アーガマと関わりを持つようになる



エウゴの乗組員としてあるZZガンダムを任せ、人海無量のアーガマで主戦力を担っていた



シャングリラ居住時から飼っていたネコ。エウゴでもこの顔を見て通じた

▶シャングリラからの旅立ちとリナとの別れ

10088年03、アーガマからZガンダムを盗み出そうとしたジュードは、アクシズ（のちのネオ・ジオン）軍エントラ隊との衝突に巻き込まれる。そこでパイロットとしての資質に目をつけたブライト・ノアにスカウトされ、ほのぼのとしたアーク・エンタールの船に乗り込むことになる。仲間たちとともにアーガマに参戦してシャングリラを脱れ、新たに参戦投入されたZZガンダムのパイロットを務めたジュードは、ネオ・ジオンとの戦いの矢面に立つ。だが、そのなかでリナがネ

オ・ジオンにさらわれ、嫁を取り戻そうとしたジュードはさらに戦いへと駆り立てられていく。シャングリラからムーン・ムーン、アクシズ、地球へと続く転戦を経て、ニュータイプとしての才能を開花させるとともに人間的に成長していくジュードは、8月にはネオ・ジオンが占領したダカールでリナを救出したが、そこで彼の戦況に巻き込まれたリナは行方不明となってしまう。しかも戦う意味を見失うジュードをよそに、エウゴとネオ・ジオンの争いは続いていくのだ。



ダカールの戦いでリナが行方知れずとなり、ジュードは悲しみに暮れて涙を流す

ニュータイプとしての資質に注目したハマーンに誘われるが、本能的にそれを拒んだ



ジュードを振り回し、そして支えたもうひとりの妹——エルビー・ブル

ジュードが妹のリナを溺愛する一方で、そのジュードを見と誤って懐いた少女がいた。ネオ・ジオンのニュータイプ能力者、エルビー・ブルその人である。ジュードに自らと合う道長を感じたブルは、彼を「お兄ちゃん」と呼んで好意を寄せた。その奔放さとわがままに振り回される場面も多かったジュードだが、決してブルを拒絶することなく、戦いと遊びの区別がつかない彼女を許めてもいる。また、リナに接近したブルが感情を爆発させた際には、「俺たちみんなで兄妹になればいい」と優しく諭した。だが、ダカールでリナがMSの墜落に巻き込まれて姿を消すとジュードもさすがに平静を失い、「今日からあたしがリナになってあげる」というブルの言葉に思わず手を上げている。それでも、ブルの素直な感受性とニュータイプの力は、ジュードを強く支えたのである。



リナを通してアタシスに誘入したジュードの側に居たブルは、年が一方通行で思いこみだった。

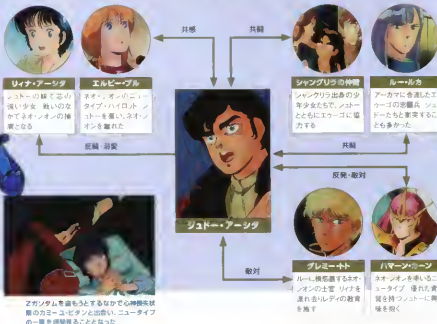


ジュードの心を打ちたいが思いつくところまで、ジュードは優しく接する。



握ることも多かったが、ジュードは彼女を放す瞬間に思っていた。

ジュード・アークを巡るさまざまな人間関係



地帯降下後にアーカマを奪ってダカールに到着するまでの間の様子



Zガンダムを盗もうとするなかで心機転を失った方、ニュータイプの一翼を運搬することとなった

▶リナを想ったジュードの力

最愛の妹であるリナを守り、幸せにすることが、ジュードが戦う最大の動機だった。その純粋な想いは、ときに悪徳を巻き込みながらも彼の力となっていく。



リナがハマーンにさらされた際には、望みから強いプレッシャーを表現させ、ハマーンをも恐れさせている。

リナは無敵な兄とは対照的に責任感が強く、エウゴの側にも積極的に協力した。



▶MAIN MS

MSZ-006 Zガンダム

クラスⅡ機で活躍したエウゴの可変MS。ジュードがしばらくの間パイロットを務め、ZZガンダムの実戦配備後も時折搭乗している。

MSZ-010 ZZガンダム

3機の戦闘機からなる合体・変形機構を特徴とするガンダムタイプMS。ジュードをはじめとするガンダムチームの面々によって運用された。



新たな力となったフラッグシップ機の活躍

アーガマへの配備直後から圧倒的な力を発揮したZZガンダムは、第一次ネオ・ジオン戦争を通して、常に第一線に立ち続けている。

戦いの舞台となった宙域



ダカール

アフリカ西海岸に位置する都市。地球環境汚染によって周囲を砂漠に囲まれているが、都市そのものは近代。地球連邦政府議会が置かれた場所として知られており、グリブス戦役ではエウゴが議会を占拠した。

ダブリン

アイルランドに位置する都市。自らの威信を見せつけようとするネオ・ジオンがコロニー落としの標的にした。その際、エウゴとカラバの尽力によって人的被害は最小限に留まったが、コロニー落としの阻止には至らなかった。

アクス

アクス(ネオ・ジオン)が拠点とする小惑星。ハマーンに反旗を翻したグレミー一派が強襲居住区画「モウサ」を分離させると、コア3に遊走させた。

コア3

サイド3に位置するスペースコロニー。ネオ・ジオンの新たな活動拠点であり、戦いの最後は戦場となった。

01

新たな力の獲得

サイド1のシャングリラ・コロニーでジュード・アークははじめての少年少女を新たな乗員に迎入れた。アーガマは、ドック艦ラビアンローズとの邂逅地点に急ぐ。だがアクスのエンドラ隊がアーガマを連戦。ジュードがZZガンダムで迎撃に向かったものの、最新艦MS(ハンマ・ハンマ)の前に苦戦を強いられる。そんなジュードの窮地を救ったのは、ラビアンローズが運送された新たな力、ZZガンダムだった。



ハンマ・ハンマ 他

02

地球への降下

エンドラとの戦いはおもむき、戦いの最中、ジュードの妹(リナ・アーク)がエンドラ隊に囚われてしまう。妹を助けるべく小惑星基地アクスに潜入したジュードはニュータイプ少女(エルビレ・プル)と、アクスの指導者ハマーン・カーンと遭遇した。地球連邦政府議会制圧のため地球降下を目指すハマーンと、降下前にリナを連れ戻そうとするジュード。ジュードの奮戦もむなしく、アクス艦隊は地球に降りてしまった。

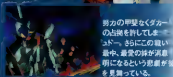


キュベレイ Mk-II 他

03

ダカールでの攻防戦

地球降下を果たしたハマーンは連邦議会のあるダカールを制圧すると、政府高官たちを呼び集めて祝賀会を開催。ネオ・ジオンを標榜すると、その力を政府高官たちに見せつけた。そこにZZガンダムを筆頭とするガンダム・チームが出現。市街に降されたMS部隊と交戦状態となった。一方、戦いの最中、リナと再会したジュードだったが、彼を兄のように慕うプルの嫉妬心が思わぬ惨劇を引き起こしてしまふ。プルが目撃した際に、リナが隠れていた小屋にMSが墜落したのだ。



パウ 他

戦況の経緯

ものに第一次ネオ・ジオン戦争と名付けられた戦乱は、アクス(後のネオ・ジオン)の発起に始まり、組織内の分裂と反乱によって事を閉じたことと知られる。グリブス戦役で戦力を温存していたアクスは、疲弊したエウゴの隙を衝いて各サイドを制圧。さらに連邦政府議会のあるダカールを占拠すると、以後、ネオ・ジオンを標榜。連邦政府からサイド3を譲渡させ、その地を拠点に勢力を拡大する予定だったようだが、かつての部下だったグレミー・トウがザビ家の血脈にあると宣言したことから組織が二分。戦力を回復したエウゴも巻き込んだ内乱を引き起こしている。

U.C.0088

- ・2月22日 グリブス戦役、終結。
- ・2月29日 カミーユ、戦線離脱。クワトロ、消息不明。
- ・3月1日 ハマーン、各サイドに制圧部隊を派遣。
- ・3月1日 アーガマ、修理と補給のため、サイド1の1バンチ・コロニー「シャングリラ」に寄港。
- ・3月11日 ジュードと仲間たち、アーガマの乗員となる。
- ・3月16日 ジュード、ZZガンダムを受領。
- ・リナ、宇宙空間に投げ出されたもの、アクス連邦艦エンブラに回収される。
- ・3月25日 アーガマ、ムーン・ムーンに寄港。
- ・4月29日 ジュード、アクスに潜入。

- ・7月8日 アーガマ、月面都市グラナダに寄港。
- ・8月1日 ネオ・ジオン艦隊、地球降下を開始。アーガマもネオ・ジオン艦隊を追撃して地球に降りる。
- ・8月2日 アーガマ、アフリカ西海岸地区に降下。以後、ガンダム・チームはアーガマと別行動を取る。
- ・8月29日 ネオ・ジオン、地球連邦議会のあるダカールを占拠。以後、ネオ・ジオンを標榜する。
- ・10月21日 アーガマ、ガンダム・チームと合流。イギリスへ。
- ・地球連邦政府、ネオ・ジオンを承認する。
- ・10月31日 ネオ・ジオン、ダブリンにコロニー落としを敢行。
- ・11月2日 アーガマ乗員、宇宙へ上がる。

再び、宇宙へ

リナが死んだものと思いき、闇に落ち込むジュード。だが彼の気持ちとは関係なくネオ・ジオンの威嚇は地球を脅す。連邦政府高官からサイド3の譲渡を承認されると、ネオ・ジオンの力を見せつけるため、アイルランドの都市ダブリンにコロニー落としを実行した。哀しみを振り払い、ラカン・ガランやブルワーといった猛者の攻撃を浴びながらコロニー落としの阻止を狙ったジュードだが、コロニーは地表に落下。都市とその周辺に壊滅的な被害が生じる事になった。これ以後、ジュードは犠牲に事えるようになる。そしてこれ以上の悲劇を起こさないためにも、ハマーンのいるサイド3を目指す。再び宇宙に上がった。

ネオ・ジオンの威嚇を示す目的で放たれたコロニーがダブリンに落下。6月に落下後、破壊は続く。サイド3・ガンダム Mk-IIとZZガンダムが交戦し――



エウゴが激進した。高機動ネル・アーサーはジュードの姿を認められ、ZZガンダムの運用可能と見て戦場の最前線に立つことに――

ザクⅡ他

グレミーの叛乱

サイド3のコア3・コロニーに居を構えたハマーンとの再会を果たしたジュードだが、事実は思わぬ方向に進みつつあった。かつてハマーンの部下だったグレミーがハマーンに叛逆。野比家の継子であるミネル・ラオ・ザビを擁護して支配権の確立を目指すハマーンに対して、自らがザビ家の血脈に連なることを宣言し、クーデターを引き起こしたのだ。ハマーン派とグレミー派に分裂して戦いが繰り広げられるネオ・ジオンに対して、ジュードはグレミーを立てることも小惑星基地アクシズへ潜入。ハマーンによる野望と国家を振りかざすグレミーとの対決に挑むが、グレミーの呪縛に囚われたブルワーの前に苦戦を強いられることになった。

グレミーの策謀からブルワーを解放するため、フルアーマーZZガンダムはクイン・マンサに接近。帽子からビーム発射をことごとく被らされた――



さらにZZガンダムと激戦でグレミーとクイン・マンサを撃退した。だが、痛傷に事よみ込まれたブルワーが激死の重傷を負ってしまった――

クイン・マンサ他

ハマーンとの決別

グレミーを討ったものの目立った被害を示さないハマーンに不審な反応を返したジュードは、相手は自分を持っていくものと判断。単身でZZガンダムを駆ると、ハマーンの待つコア3・コロニーへ向かった。そこにはキュベレイに乗り込んだハマーンが待ち構えており、ジュードを仲間引き入れようと最後の賭博を試みる。だがそれが無敵とわかるや攻撃を開始。ファンネルを駆使するキュベレイの前に、おしめのZZガンダムも同様に立てられてしまう。それでも屈めようとしないうジュードの想いで、かつてのニュータイプたちの精神が共鳴。それに応えるかのようにZZガンダムが驚異的な力を発揮してハマーンを追い込む。だがハマーンも一歩も引くことはせず、ジュードとの決戦を望むのだった。



互いに死力を尽くし、強いダメージを重ねたZZガンダムとキュベレイ。待ち伏せからの一撃とどめを例えうとするキュベレイにZZガンダムは弾丸早返。どちらも大破するという結果に終わった――

MS OTHER 戦記

カミーユとの再会

クリリス戦役ではエウゴを代表するニュータイプパイロットだったカミーユ・ユビタン。だが最終決戦で精神に渾身を費やしたことからアーガマから退場。以後アーガマのパイロット乗員はシフトををれとすると少年少女が占められるようになった。たかま戦場が地上に移ったことで、シフトたちはカミーユとの再会を求めている。アーガマが立ち着いたタフリンの地でカミーユは静養していたが、完全復調には至っていないがとはいえ、彼の精神は回復の兆しを見せており、ニュータイプの交感によってシフトたちに仲間意識を伝達。さらにサイコ・カンタム Mk-IIに侵入されそうになったエルピーブルに警告を発している。その後のカミーユの動向について詳細な情報は伝えられていないが、ファウズリィの手厚い看護によって身体的にも回復したとすると、その向きもあり、少しずつだが、かつての活力を取り戻しつつあるようだ。



第一次ネオ・ジオン戦争終結後、ファウズリィにたわむれるカミーユ。クリリス戦役での彼の体験を思うところ、今はまだ癒えてはいない――



ダブリンでのカミーユはいまだ戦争中のイメージが強い。タイプ能力を取り戻しつつあるが、直近の手先を感傷に陥らしてはシフトたちを驚かせた。

- ・11月3日 ネル・アーガマ就航。
- ・11月14日 連邦政府、サイド3をネオ・ジオンに譲渡。ネオ・ジオン勢力、地球から撤退。
- ・12月25日 ネオ・ジオン内でグレミーが反乱。ネオ・ジオン、ハマーン派とグレミー派に分裂。
- ・U.C.0088
- ・1月10日 グレミー派とハマーン派の離脱戦、勃発。
- ・1月15日 ネル・アーガマ、アクシズ宙域へ。
- ・1月16日 グレミー、アクシズ内の戦闘で戦死。
- ・1月17日 ハマーン、ジュードとの決戦ののちに死亡。
- ・第一次ネオ・ジオン戦争、終結。
- ・3月15日 ジュード、ジュビリスIIで木星に向かう。

木星圏に向かったZZガンダム

第一次ネオ・ジオン戦争終結後、シフト・ルー・ルカは木星圏周りに参加したが、その際にZZガンダムを持ちこんだとの説がある。ZZガンダムほどの大出力機ならば木星の高重力環境でも支障がないと考えたのだろう。ちょうどニュータイプの誕生日にネオ・ジオン脱走からの亡命希望者が木星圏に逃走。追手の攻撃に晒されていたところをシフトが救出したのだが、その救いでZZガンダムは能力を遺憾なく発揮。重力の束縛など影響しないかのような戦いを披露している――

木星にシフトが持ちこんだのはZZ-GR。キュベレイとの決戦で破壊された下身を、その「ハウ」を脱着パーツを使って代替。ユニット置き換え機体だ――



宙空間での交戦の最中に推進剤を使い尽してしまったZZ-GR。だが地球の軌道リナから正確なハートが送られたことで、本家のZZガンダムに合体した――

Zガンダム完成の2年前からZZガンダムの開発計画は存在していた
技術的な問題などから開発は見送られていたが、戦局の推移から再開の運びとなった

KEYWORD

■Z計画
「Z計画」に発展してAE（アノハイム・エレクトロニクス）
が完成したMS開発計画。グリプス戦役の推移を鑑み
「Z計画」へと移行した。

■Z計画
ユーザーとAE社による共同計画で、数機の試作機を
経てMSZ-006 Zガンダムとその基幹機を生み出した。
また、その後も計画は継続されている。

■第四世代MS
エネルギー自給式の火炎カメラ電子戦やサイコミュ
などを搭載したMSを指す。MSZ-010 ZZガンダムは
ワンオフの機体でほとんどだが、AMX-014 ドーバ
ルフのように量産機が製造された例もある。

MSZ-006 Zガンダム

エーコとAE社によるMS開
発計画「Z計画」において開
発された可変MS。その性能と
戦果から、グリプス戦役におけ
る最高傑作機、とも呼ばれる
WR（ワイフライター）形態に
よる大気圏単体突入能力も有
する。その優れた性能からZブ
ラスをはじめ、多数の関連機が
生み出された。



発展

RX-78GP03 ガンダム試作3号機 デトロピウム

ガンダム開発計画で建造されたカ
ンダムタイプMSのうちの1機。量産
MSであるRX-78GP03S ガンダム試
作3号機、ステイテンとアームドヘー
ス、オーキス、か合体した形態である
量産型の試作防衛などを主目的とした
機体で、メガ・ヒューズに収束、多数
の兵器やフィールドエネルギーを
蓄える。

発展



MSZ-009 プロトタイプ ZZガンダム

ZZガンダムの機構試験のため
に開発された機体。武装が画
かれていないほか、ネオ・コア
・ファイターも未採用であつた。
合体変形機構は有してあり、上
半身がGトノP型、下半身が
GヘースR型で、Gアーマーへ
の変形も可能。ただし、Gアー
マーからMS形態となるには一
度分解する必要があつた。

改修



MSZ-009B プロトタイプ ZZガンダムB型

各種試験が終了したプロタイ
プZZガンダムを改修した機体。
ハイ・メカ・キャノン搭載のハ
トユニットへの換装やヒュー
ム・キャノンを兼ねたハイパー・ビ
ーム・サーベル、タフ・ヒュー
ム・ライフルなど、主に武装種が装
備された。また、エネルギー
も新開発の小型高出力のタイ
プに変更されている。

Gアーマー

RX-78 ガンダムの機体強化を目的に開発されたオ
フ・ロードタイプMS。AメカとBメカをガンダムのAハ
ットユニットと組み合わせて、戦闘機や爆撃機、軍用車とし
て運用可能。さらに内部にガンダムを収納すること、長距離
移動を行うことも可能となると、SFSとしても運用された。

MSA-0011[Best] Sガンダム(フースターユニット装備型)

Sガンダムの機体ハリエーションのうちのひとつ。腕部のほか、脚部も強化型ハリエーションに換装されており、一機には10Gともいわれるほどの加速力を誇る。宇宙用の高速・高機動タイプとして採用された。



強化

強化

MSA-0011[Best] PLAN303E ディーブストライカー

Sガンダムの強化プランのひとつ。大推力で動員力に突

入し、収縮アークスのメカ粒子砲で目標を攻撃。そのほか機体という強さをコンセプトとした機体。ミニチュアコンのみで実機は建造されていない。



別仕様

強化



MSA-0011[Ext] Ex-Sガンダム

Sガンダムに8個もの強化パーツを装着した重武装仕様。フィールドやリフレクター、インコムによって極めて高度な攻防力を獲得するに至った。Gクルーザーへの変形が可能。

発展

MSA-0011 Sガンダム

Z計画における7番目のガンダムタイプMSで、究極のガンダムを目指して開発された。第四世代MSに分類される機体で、MSの無人化を目的としてAI「ALICE」を採用する。

少数生産

MSZ-006A1 ZプラスA1型

ZガンダムのWR形態の空戦能力向上を目的として開発された機体で、推進器が無結晶エントエーションに換装されているほか、ウイングバインターを採用する。カラハによって運用され、アムロ・レイ大尉がテストパイロットを務めた。



改造

MSZ-006A2 ZプラスA2型

ZプラスA1型のハリエーションで、頭部にハイ・メガ・キャノンが装備したタイプに換装されている。A1型から6機が本ハリエーションに改造され、実戦配備された3機を除き、残りはハーフ交換用として解体されている。なお、本機で得られたデータはZZガンダムに反映された。

二部、機構を参考

AMX-107 パウ

ネオ・ジオン・アークスが開発した可変MSで、上半身のハリアクターと下半身のハウナターに分離・合体することから可能。ZガンダムをはじめとするZ計画系の機体の設計が参考にされている。機体色が緑の量産型のほか、ジオン降参が運用した機体も知られる。



ハイメガ・
キャノン参考

MSZ-013 量産型ZZガンダム

ZZガンダムの機体量産機で、コア・プロ・ウイングシステムを廃するなどして生産性が向上している。全身表面にミサイルなどを装備し、弾架機と同様の高火力を確保している。だが開発コストを抑えることはできず、4機が生産されたのみで、うち1機はジオン降参時に投入されたといわれる。



生産

発展

MSZ-010 ZZガンダム

ガンダムタイプの基盤に置ける機体でも、機体設計が特異的な機体。機体を構成する3機の戦闘機がそれぞれジェネレーターを搭載しているため、MS形態にドッキングした際には総出力に余裕が主び、機体の強力なビーム兵器の運用が可能となった。なかでも頭部に搭載されたハイ・メガ・キャノンにはMSの内蔵兵器としては最高の火力を発揮するほど、近衛的な攻撃力を持つ。その一方、生産コストや整備面で問題があり、それが量産化の妨げとなった。



仕様模範

強化

MSZ-010S 強化型ZZガンダム

ZZガンダムの各部に調整を施した機体で、バックパックの大型化やジェネレーターの高出力化などが図られた。21連装ミサイル・ランチャーが18連装2段用ミサイル・ランチャーに換装。また、フッ素樹脂塗料のコーティングによって対ビーム防御性能も向上している。



増加装甲仕様

FA-010S

フルアーマーZZガンダム

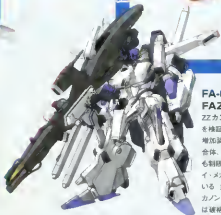
強化型ZZガンダムに増加装甲を施したフルアーマー仕様機。増加装甲は多重空間装甲となっており、マイクロ・ミサイルやプロペラントタンクなどが内蔵されている。また、フローティング・アーマーのため、両腕の動きを阻害しない。なお、この増加装甲は任意にバージ可可能。



強化

FA-010A FAZZ

ZZガンダムのフルアーマー状態を模倣するために製造された機体。増加装甲は固定式のほか、分離や合体、変形もできないなど、機能も制限されている。また、頭部のハイ・メガ・キャノンもガミートとなっている。主武装であるハイパー・メガ・キャノンは、当時のMS用兵器としては破格の威力を誇る。



発展

MSZ-013
最新型 ZZ ガンダム

改良

改良

現地改修

MSZ-010S
ZZ-GR

第一次ネオ・ジオン戦争終結後の戦いで失われたZZガンダムを改修した機体で、ジュビトリスIIに配備された。破壊された下半身（Bパーツ）は新規パーツとなっている。また装甲の形状に加え、バックパックも異なっている。のちにコア・ベース2号機に換装し、本来の性能を発揮した。

MSZ-010A1
シートプラス

θ計画の集大成として開発された機体。ムーバブル・フレーム構造を活かした高度な機動機構を有しており、任務に応じてユニットを交換することでZZ-GR以上の機動性と汎用性を獲得した。ロスト・ヘルズのラー・ギルスに配備された。パイロットはサフィラ・ガードナー中尉。

MSZ-009BX
プロトタイプZZガンダム
(ナイトロ搭載型)

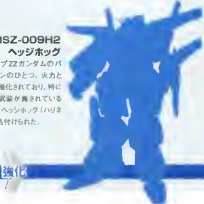
プロトタイプZZガンダムB型に「ナイトロシステム」を搭載した機体。GトップゼロとGベースゼロに分離可能。さらに有人のGトップゼロから無人のGベースゼロを遠隔操作が可能。地球連邦軍の特務介入部隊フレスベルグに配備され、隊長のセナイド・ギル中尉の乗機として運用された。

MSZ-009H3
ファウニル

ヘッジホッグを改修した機体。両腕のバンダーやバックパックの形状など、ギャランを彷彿とさせるシルエットを有する。しかし、これは増加装甲で、装甲をパーンすることで本来の姿となる。グラナダ基地に配備されており、強化人間のアリーゼ・マデバが搭乗した。

MSZ-009H2
ヘッジホッグ

プロトタイプZZガンダムのバリエーションのひとつ。火力と機動力が強化されており、特に背部に重武装が施されていることから、「ヘッジホッグ（ハリネズミ）」と名付けられた。



クリス戦役から第一次ネオ・ジオン戦争の期間中、各勢力は様々なMSを開発し投入した。こうした流れのなかで、第三世代、第四世代MSが生み出されている。確かにこれらの機体は極めて高性能ではあったが、開発コストの巨額や運用性の問題から「MSの恐竜的進化」といわれる結果を招くこととなった。こうした状況から、MS本来の「自衛戦闘兵器」というコンセプトに帰属した機体が開発・配備されるようになった。その代表がシムの後継機となったニューガンダムである。

RGM-89
ゼガン





Z計画

Zガンダムの完成で「Z計画」は一旦の区切りを見せた。だがMS全体の進化のなかで、さらなる火力の向上やサイコミュ技術の導入を果たした第四世代MSへと開発がシフトしていくこととなった。そのような潮流の下に誕生したのが「最強のガンダム」とも称されるZZガンダムであった。

第四世代MSの開発と Zガンダムの改良・量産計画

のちに「Z（ゼータ）計画」と呼ばれたAE（アナハイム・エレクトロニクス）社（以下、AE）のエウゴ向け可変MS開発プロジェクトは、「グリプス戦役における最高傑作機」とまで呼ばれる第三世代MSの代表格、MSZ-006 Zガンダムの完成をもって一旦の区切りを迎えた。しかし、Zガンダムが実戦投入されたU.C.0087.08はグリプス戦役の最中で、兵器開発競争は加速する一方だった。

特にティターンズは、木星船団のパプテマス・シロッコ大尉やニュータイプ研究所の協力を得て、ニュータイプ（強化人間）専用機を含む高性能

を次々に開発・実戦投入していった。さらに地球圏に帰還しつつあったアックス（のちのネオ・ジオン）も、ニュータイプ専用MSを実用化している。

当然、エウゴの要請を受けたAEでも、Zガンダムで培われた新技術を用い、新型MSの開発を進めていった。その代表が既存の「Z計画」系MSの改良・量産化、そして高出力メガ粒子砲とサイコミュを搭載する第四世代MSの開発であった。第四世代MSの開発は第一次ネオ・ジオン戦争に向かう戦略・戦術環境の変化によるもので、MSZ-010 ZZガンダムのような怪物的MSを生み出すこととなった。



「Z計画」系第四世代MSの誕生とその怪物的スペック

一年戦争後、MSのスペックは徐々に底上げられ、グリアス戦役期における「力」MS、MS-A-003「ネモ」とRMS-108「マラサイ」の時点で、一年戦争時のハイエントMSだったRX-78-2「ガンダム」を超えることとなった。それ以前のRMS-179「RGM-79R」シムリなどもジェネレーター出力やスラスター推力といった数値面はガンダム以上だった。が、ネモやマラサイが画期的だったのは、ガンダリウム製装甲、全周周モニター、リニアシートの標準化などにより、耐弾性や操縦性といった要素も向上した点にある。

以後、MSはネモなどの第四世代MSで確立された技術を継承する形で発展し、「Z」画においてZガンダムが誕生することになるが、実は革新的といえるほどのカワログスへの強化は見られなかった。ヒーム兵器やセンサー有効半径を除けば、ガンダム開発計画の試作MS群でも見られたレベルである。

「Z」画においてMSのスペックが劇的に向上したのは第四世代MSであり、ジェネレーター出力はZの3.5倍以上、ヒーム兵器は文字通り「相違い」の出力を実現している。

■Z計画系フラッグシップマシンと一般機のスペック

機体名	MSA-003 ネモ	MSZ-006 Zガンダム
アノハイム開発コード		く(セウ)1 ガンダム
開発所	18.5m	19.8m
全高	19.5m	19.85m
本体重量	36.2t	28.7t
主砲重量	55.6t	62.3t
ジェネレーター出力	1,620kW	2,020kW
スラスター推力	72,800kg	112,600kg
センサー有効半径	10,020m	14,000m
近接制敵バーニア数	12基	8基
装甲材質	ガンダリウム合金	ガンダリウム合金
ジェネレーター搭載位置	胴体 脚部(メイン・ジェネレーター) 胴体(サブ・ジェネレーター) ハイパー・メガ・ランチャー(オプション)	
特殊機能	Gディフェンサー対応(推定)	可変機體 大気圏突入機體 バイオ・センサー
武装	袖盾バルカン砲×2 ヒーム・ライフル ヒーム・サーベル×2 シールド	袖盾バルカン砲×2 ヒーム・サーベル (ヒーム・ガン専用)×2 グレネード・ランチャー (ワイヤー・弾ランチャー)×2 ヒーム・ライフル ロング・ヒーム・サーベル(兼用) ハイパー・メガ・ランチャー シールド

TECHNOLOGY INFO

「Z計画」系の支援メカ

「Z計画」や周辺計画では、メガ・ランチャーを中心とした高出力ヒーム兵器や変形・合体に関する技術、SFS系の発想などを取り込んだ支援メカやオプションも開発された。Zガンダム用のオプション兵器にあたるFXA-03M2「ハイパー・メガ・ランチャー」はそのひとつであり、Zガンダムの主兵器となるダブル・ヒーム・ライフルに連なる技術となった。



百式用のFHA-03M1 (FHA-03M1)メガ・バスター・ランチャー。単なるメガ・ランチャーではなく、移動支援用SFSとしての側面も持っていた。

FXA-05D Gディフェンサー。火力、耐弾性、機動性の向上を目的としたガンダムMAE用(ネモ用とも)の宇宙戦闘機強化装置。



FXA-08R メガライダー。メガ・ランチャーとSFSの機能が融合した、多目的支援メカ。長期作戦用の居住スペースを有している。

「Z計画」系第四世代MSへの道程

この「Z計画」系第四世代MSにつながるコア・プロセスシステム仕様の基幹・合体式大火力MSのプランは、クリス戦役以前から存在した。だが、当時の技術では実現困難であったため、Zガンダムとの社内統合に敗れ懸上されてしまう。この状況に、変化をもたせたのが「Z計画」の発展にともなう関連技術の成熟。そして兵器開発競争の激化であった。



FA-00100S

フルアーマー百式改

MRX-011

原型型サイコ・ガンダム

百式改の複合増設機構。第四世代MSに迫る防衛力を示し、火力重視の戦術環境を体現していた。

① 兵器開発競争と可変MA、MS

クリス戦役が勃発すると、ニュータイプ研究所を傘下に置いたティターンズとAEとの協力体制を確立して、エーペーによる兵器開発競争が激化。このなかで可変MAや可変MSが誕生した。



② 大火力とサイコミュの時代へ

Zガンダム用ヒーム・ライフルやメガ・ランチャーといった高出力ヒーム兵器の登場。AE独自の連サイコミュ・バイオ・センサーの開発により、第四世代MSの技術基盤が整っていた。



③ 第四世代MSを運ぶ開発

関連技術の成熟、火力重視の戦術・戦術環境の形成とい、先鋒条件が揃った。クリス戦役末期から第一次ネオン戦争初期にかけて、AE製の第四世代MSがロールアウトした。

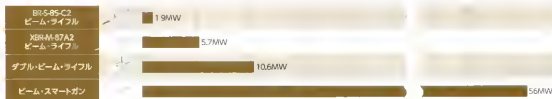


MSZ-010 ZZガンダム	MSZ-010S 強化型ZZガンダム	MSA-0011 Sガンダム	MSA-0011 [Ext] Ex-Sガンダム
0 (シータ) ガンダム	--	ε (イオタ) ガンダム	--
19.86m	19.86m	21.73m	21.73m
21.11m	21.11m	25.18m	25.90m
32.7t	32.7t	38.40t	69.24t
68.4t	71.6t	73.00t	162.50t
7,340kW	7,340kW (7,860kW)	7,180kW	12,250kW
101,000kg	124,800kg	143,600kg	1,182,000kg
16,200m	16,200m	18,800m	18,800m
32 基	36 基	15 基	15 基
ガンダリウム合金	ガンダリウム合金	ガンダリウム合金ポジット	ガンダリウム合金ポジット
胴部 (ネオ・コア・ファイター) 上半身 (コア・トップ) 下半身 (コア・ベース) ダブル・ビーム・ライフル	胴部 (ネオ・コア・ファイター) 上半身 (コア・トップ) 下半身 (コア・ベース) ダブル・ビーム・ライフル	胴部×2 (Gアタッカー) 膝部×2 (Gボマー)	胴部×2 (Gアタッカー) 膝部×2 (Gボマー) 強化型バックパック (×2, 固定)
変形・合体機構 コア・ブロック・システム バイオ・センサー	変形・合体機構 コア・ブロック・システム バイオ・センサー フルアーマー装備対応	変形・合体機構 コア・ブロック・システム オプション・パーツ換装機構 神経支援用AI (ALICE)	変形・合体機構 コア・ブロック・システム 増設式ムーバブル・フレーム 神経支援用AI (ALICE)
ハイ・メガ・キャノン ダブル・バルカン×2 ハイパー・ビーム・サーベル (ビーム・キャノン兼用) ×2 胸部21連装ミサイルランチャー×2 ダブル・ビーム・ライフル シールド×2	ハイ・メガ・キャノン ダブル・バルカン×2 ハイパー・ビーム・サーベル (ビーム・キャノン兼用) ×2 胸部18連装2段階 ミサイルランチャー×2 ダブル・ビーム・ライフル シールド×2	60mmバルカン砲×4 胸部ビーム・キャノン×2 大腿部ビーム・キャノン×2 ビーム・サーベル×2 腹部インコム テール・スタビレータ=60mm バルカン×4 ビーム・スマートガン (選択式)	60mmバルカン砲×4 バックパック部ビーム・キャノン×4 大腿部ビーム・キャノン×2 1フレーム発生器 ビーム・サーベル×2 腹部インコム リフレクター・インコム テール・スタビレータ=60mm バルカン×4 ビーム・スマートガン (選択式)

■Z計画系フラッグシップマシンと一般機の搭載ビーム兵器出力の比較

	MSA-003 ネモ		MSZ-006 Zガンダム		MSZ-010 ZZガンダム		MSA-0011 Sガンダム	
	武器名	出力	武器名	出力	武器名	出力	武器名	出力
手持式 火器	ビーム・ライフル	1.9MW	ビーム・ライフル (Eバック出力) (ロング・ビーム・サーベル時)	5.7MW 0.8MW	ダブル・ビーム・ライフル	10.6MW×2	ビーム・スマートガン※	56MW
格闘兵器	ビーム・サーベル	0.4MW	ビーム・サーベル (ビーム・ガン時)	0.65MW 1.3MW	ハイパー・ビーム・サーベル (ビーム・キャノン時)	1.1MW 20MW (10MW×2)	ビーム・サーベル	0.9MW
その他			ハイパー・メガ・ランチャー (ロング・ビーム・サーベル時)	8.3MW 0.8MW	ハイ・メガ・キャノン	50MW	胸部ビーム・キャノン 大腿部ビーム・キャノン※ 腹部インコム	12MW×2 14MW×2 3.8MW

※ビーム・スマートガンと大腿部ビーム・キャノン2門は出撃時にどちらかを選択して装備



ZZガンダムの開発

第一次ネオジオン戦争でエウゴのフラッグシップマシンとなったZZガンダムは、ハイメガ・キャノンに代表される超大出力火器を備えた変形・合体形式の第四世代MSである。ZガンダムにいたるAE製MSとその関連技術を惜みなく投入した「Z計画」の到達点のひとつだ。開発計画そのものは古くから存在した。

1 グリプス戦後以前の「G計画」

Zガンダム開発の2年前、コードネーム「G」として秘密プロジェクトが開始した。



2 Zガンダムとの競合

開発の遅延や技術的問題により、Zガンダムとの社内コンペに敗北。開発は頓上げに。



3 プロトタイプ

ZZガンダムの開発
Zガンダムの軽体の性能低下もあり、機体試験機が開発される。



4 ZZガンダムの誕生

熱核融合炉2基構成だった前身機を改め、4基の融合炉を有するZZガンダムが完成。



ZZガンダムの技術的系譜

ZZガンダムは「ガンダムの復活」を目指し、Gアーモアのコンセプト、メガ・コンデンサー、Zガンダムの分散配置ジェネレーターや可変機構などを盛り込んだ。



RX-78 ガンダム
にGアーモアの能力を加えたシステムをMS単独で実現しようとした。



ZZガンダムの技術

ZZガンダムは、初代ガンダムと同様のバティカル・イン・サ・ボディ方式のコア・ブロック・システムを採用し、FXA-07GB ネオ・コア・ファイターを中心に、MS形態時に上半身を形成するコア・トップ、下半身およびバックパックとなるコア・ベースによる変形・合体機構を備える。構成各機とダブル・ビーム・ライフルに熱核融合炉を搭載することで、7,000kW級のジェネレーター出力を達成したのだった。

■ZZガンダムに導入された最新技術

① 変形機構

変形機構により、MS形態とGフォートレス形態を使い分け可能。

② ハイ・メガ・キャノン

メガ・コンデンサー直結型の超高出力メカ粒子砲。

③ ハイパー・ビーム・サーベル

ビーム・キャノン兼用の高出力ビーム・サーベル。

④ バイオ・センサー

機体の追従性を向上させるネオ・サイコミュ・システム。

⑤ ダブル・ビーム・ライフル

熱核融合炉搭載の2連装ビーム・ライフルを主兵装として装備

⑥ 合体機構

ネオ・コア・ファイターを含む3機が合体・分離する。

⑦ 分散配置型熱核融合炉（ジェネレーター）

構成各機とダブル・ビーム・ライフルに熱核融合炉を計4基搭載し、大出力を実現。

① 変形機構

可変MSとしての機能を持ち、MA形態に相当する長距離遠征用のGフォートレス形態に変形可能だ。



② 合体機構

3機の航空機が合体し、ZZガンダムとなる。各機は分離状態で運用にも対応する。



③ 分散配置型熱核融合炉

機体各部に計4基の熱核反応炉を分散搭載し、規格外の高出力ビーム兵器も問題なく稼働可能。



④ ハイ・メガ・キャノン

頭部に搭載する超高出力メカ粒子砲。MS用メカ粒子砲としては最大級の火力を持つが連射は不可。



⑤ ダブル・ビーム・ライフル

ZZガンダムの主兵装。一方のビーム砲だけでなく、Z用ハイパー・メガ・ランチャー以上の出力を有する。



⑥ ハイパー・ビーム・サーベル

一般モデルの1.5倍のビーム刃を形成する高出力格闘兵装。直徑20mの岩塊も切断可能だ。



⑦ バイオ・センサー

Zガンダムでも採用されたAE独自のネオ・サイコミュ。密定外の機能を発揮したこともあったという。



ZZガンダムの発展と派生

Zガンダム以上の火力と運用柔軟性を有したZZガンダムだが、高コストのため派生機は少ない。MSZ-010A1 シータプラスは数少ない派生機のひとつだ。



MSZ-010S
強化型ZZガンダム
ネルアー・ガム配装機を、フルアーマー装備に対応させたバランス調整仕様機。



MSZ-013
量産型ZZガンダム
簡略化による量産化を目指した機体。低コスト化は不十分で量産は見送りに。

Sガンタムの開発

Z計画における7番目のガンダムは「MS RM5 099」……「Yガンダム」を含む場合にあるSガンダムは「究極のガンダム」を目指して開発された。ZZガンタムの開発が本格化した以降の設計と見られ、それに似た機構を持つ第10世代MSとして「完成 無人機化を想定」たAIの搭載が最大の特徴といえる。

①「究極のガンダム」の提言

Zガンタムの本格開発と同時に「究極のガンダム」として開発が始まった。



② ZZガンタムの問題点の是正

ZZガンダムで問題視された分離状態各機の出火・機力不足の是正が図られている。



③ 無人化の試み

MSの無人機化を目指しAIを搭載し、当初は遠隔支援用として機能した。



④ Sガンタムの完成

リファス戦後末期完成。AIは有人操縦による実戦投入育成された。



Sガンタムの技術系譜

SガンダムはZガンダム・ZZガンタムの技術が反映されたほか、オースティン・ニュータイプ研究所のAI ALICE（連邦軍の技術が導入された）



変形・合体機構を持ちつつ、胸部とテール・スタビレーターにZガンタムの影響が顕著である。



Sガンタムの技術

ハ・テクニカルインサ・ホテ……フロ・システム3機の航宙・航空機による変形合体・分散配置型熱核融合炉・ニュータイプZZガンダムに近い基本構造を採用した。その一方で、機体の一部ごと交換可能な着脱式ムーバフル・フレーム構造・新型高出力ヒーム兵器のヒーム・スマートガン・オースティン・ニュータイプ研究所のAI ALICEといった新技術も取り入れられた。

■Sガンダムに導入された最新技術

① ALICE

MSの無人化を目的に開発された人工知能。遠隔支援用AIとして機能。

② インコム

オースティン式有線誘導ヒーム砲。錠型的なオールレンジ攻撃が可能。

③ テール・スタビレーター

ハ・テク中央に配置された3基目のAMBACシステム。

④ Gコア、Gアタッカー、Gボマー

Sガンダムを構成する3機の航宙・航空機。各機が固定式のコックピットを持つ。合体・分離する。

⑤ 着脱式ムーバフル・フレーム構造

ムーバフル・フレームの一部を外装ハバノコと交換することで、運用形態を瞬時に変更可能。

⑥ 変形・合体機構

3機の航宙・航空機が合体してMS形態に、MS形態でMA形態にはならない。

⑦ ヒーム・スマートガン

オプショナル武の大高出力ヒーム兵器。ヒームライフルの一種である。

⑧ 分散配置型熱核反応炉

構成各機が熱核反応炉を搭載。MS形態では両面・両側の熱核反応炉を使用。

① 変形・合体機構

Gコアを中心に3基の航宙・航空機が合体。MS形態でのAI制御時はGコアだけでも移動可能。



② Gコア、Gアタッカー、Gボマー

Gコア=腰部 Gアタッカー=上半身 Gボマー=下半身 ZZと異なり、各機の加速力の差は小さい。



③ 分散配置型熱核反応炉

Zガンダムで確立された搭載方式。本機は遠隔誘導を避けるため、融合炉搭載の両面・両側を被覆可能。



④ 着脱式ムーバフル・フレーム構造

一般的MSの2倍ものフレーム数を誇り、合体変形やオプション交換に対応。可動自由度にも優れる。



⑤ テール・スタビレーター

ハ・テク搭載の非田型AMBAC級でフロベラント・センサー・バルカン砲を搭載。



⑥ インコム

頭部搭載の有線誘導式ヒームコンピュータのサポートにより、ニュータイプでも使用できる。



⑦ ヒーム・スマートガン

ムーバフル・フレームを介して接続する手持ち式ヒーム兵器。Sガンダム用では最大の出力を誇る。



⑧ ALICE

Sガンダムの自律制御・遠隔支援用AI。教育型コンピュータの一種で人間の理不尽さを学習する。



換装バリエーション

Sガンダムには、着脱式ムーバフル・フレーム構造を利用したオプション機装バリエーションが存在する。いずれも別次元の超高性能仕様である。

MSA-0011[Ext] Ex-Sガンダム

高度な航宙・航空性能に、変形可能な着脱式機装3機による強化型。



MSA-0011[Best] Sガンダム

（ブースターユニット搭載型）宇宙用の高速度・高機動性機装。胴部を含め4基の強化型ハバノコを搭載した。



Zガンダム系派生機の開発と多様化

グリプス戦役後、「Z計画」系の第四世代MS——ZZガンダムやZガンダム——の開発が進み一方で、第三世代MSにあたるZガンダムの派生型や量産型機の開発も行われた。第四世代MSは確かに強力であるがコスト面の問題が顕著なこと、運用性やパワーウェイトレシオに優れたZガンダムへの評価が高かったことなどが理由として考えられる。

結果、Zガンダムのマイナーチェンジ型、局地戦用量産機、可変機構を簡易化した発展型などが開発され、そのいくつかは実戦配備となった。特にエゥーゴの友軍として地球上で活動したカラバは、Zガンダムの系列機の運用を進めたといわれる。AE社もカラバへの売り込みに積極的であり、Zガンダム3号機とMSN-001-2デルタガンダム式号機のプロモーション映像を制作している。

もっとも、すべてのZガンダム系派生機が順調に配備されたわけではない。その代表例がZガンダムの非変形型量産機にあたるMSZ-007量産型Zガンダムであり、社内コンペに敗れた末、試験運用にとどまった。

TECHNOLOGY INFO

AE製ガンダムと開発コード

装甲に用いられたガンダリウムγから「γガンダム」の開発コードを与えられたリック・ディアス以後、AE製のガンダムタイプMSにはギリシャ文字を含むコードネームを持つ機体が散見されるようになった。これは「Z計画」以外で開発された機体にも見られており、U.C.0100年代初期の第五世代MS、ミガンダムにも導入された。

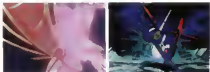


機体名	開発コード
RMS-099 リック・ディアス	γ(ガンマ)ガンダム
MSN-00100 白式	δ(デルタ)ガンダム
エプシロンガンダム	ε(イプシロン)ガンダム
MSZ-006 Zガンダム	ζ(ゼータ)ガンダム
MSZ-007 レヴィア *	η(エータ)ガンダム
MSZ-010 Z(シータ)ガンダム	θ(シータ)ガンダム
MSA-0011 Sガンダム	ι(イオタ)ガンダム
MSA-014 シブマガンダム	κ(カッパ)ガンダム
MSA-0012 Aガンダム	λ(ラムダ)ガンダム
RX-90 μガンダム	μ(ミュー)ガンダム
RX-93 νガンダム	ν(ニュー)ガンダム
RX-105 ミコガンダム	ミ(ミクス)ガンダム

*同型式番号を持つ量産型Zガンダムとは異なる機体

初号機後のZガンダム系派生機

カミーユ・ヒダンの乗機となったZガンダムの初号機がロールアウトした後、多数の派生機が開発された。こうした機体は、Zガンダムの基本構造を継承したものと、変形機構に大幅な変更を加えたものに分けられる。U.C.0097、反連邦組織E.A.R.M.と交戦した機体は、外装オプションを除けばオリジナルに近い仕様だったようである。



アーガ配属機も時期によって仕様が変わるという。パイロセンサーの追加、Zプラスのパーツの活用などがなされたようである。

■ ハイエンドのZガンダム3号機

初号機と同じ基本構造を有し「Zガンダムそのもの」といえる機体。兵装、装甲形状、一部機能などが異なる機体も存在するが、WR(ウェーブライダー)形態への変形をはじめZの性能と機能を持つ。



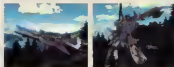
カラバ運用の3機が有名。B型は兵装やスタビライザーが異なり、P2型はサイコニュートロライザーを搭載した。



MSZ-006-3A Zガンダム3号機 A型
MSZ-006-3B Zガンダム3号機 B型
MSZ-006-P2/3C Zガンダム3号機 P2型

■ Zの局地戦用量産機Zプラス

グリプス戦役時、高性能MSと航空戦力の拡充を狙うカラバが開発した可変MS。Zガンダムを大気圏内用に再設計したA1型、頭部メガキャノン装備のA2型、宇宙用のC1型などが開発された。



WR(ウェーブライダー)形態は良好な飛行性能と費用対効果を実現、カラバ戦隊後は連邦地上軍に配備された。



MSZ-006A1 Zプラス A1型
MSZ-006C1 Zプラス C1型

■ 変形機構を簡易化したZII

Zガンダムの生産性や費用対効果を低下させた、複雑な変形機構の改善を目指して開発された発展型がZII(ゼットウ)だった。少量が生産され、第一次ネオ・ジオン戦争などに投入されたという。



変形機構は「Z計画」の過程で開発されたメタスの方式に差し替えられ、Zガンダムの開発だった複雑さは削減された。



ZIIのWR(ウェーブライダー)形態メタスのMA形態に近い形状が見てとれる。ZIIより大気圏突入能力は持たない。

MSZ-008 ZII

■ 非可変式の量産型Zガンダム

Zガンダムの量産化は様々な側面から試みられ、高コスト化を招く変形機構を廃止した機体すら模索された。それが量産型Zガンダムだが、百式改などとの社内競争に敗れ量産化されなかった。



量産型Zガンダムは、原型機の優れたパワーウェイトレシオや強力な手持ち武器に注目した設計だったと思われる。



エゥーゴは、グリプス戦役初期に採用した第二世代MSネモを広く運用、ガンダムタイプの量産機は少なかった。

MSZ-007 量産型Zガンダム

第一次ネオ・ジオン戦争後の「Z計画」系技術

第一次ネオ・ジオン戦争をもって、総合プロジェクトとしての「Z計画」は終了したと考えていい(そもそも「Z計画」自体が、のちに一座のMS開発プロジェクトを統合して命名されたものだった)。グリプス戦役から2年続いた戦争が終結したこと、トータルコストの増人を抑え、第四世代MSが製造されるようになったこと、AEとシヤア・アズナブル指揮下のネオ・ジオンが兵器開発で協力関係を築いたことなどが、この背景にある。

ただし、Z計画で誕生したMSやその技術は、第一次ネオ・ジオン戦争後のAE社および連邦軍のMS開発に多大な影響を与えた。実際、アムロレイの乗機であるガンダムには「Z計画」の部材も多数使用されたという。

また、連邦軍の一部は可変MSに興味をもち続けており、デルタガンダム系やZガンダム系の可変MSの研究が継続。そしてU.C.0090年代なかばにはZガンダムの宇宙用量産機にあたるリゼル、人気圏内用のアークシヤが配備され、Z計画の血を引く可変量産MSが連邦軍MS戦力の一角を占めたのだった。

「Z計画」後の系列機

「Z計画」やその周辺計画でAEが進めた技術は画期的なものだった。基礎技術は地球連邦軍やアクシスを含むジオン系組織に継承するが、カンパリウムYの加工技術、可変機用を含むムーバフルフレームの高度化、メカ・コンテナーの小型化などは「Z計画」による部分が大きくAEの継発機に多大な影響を与えた。



「Z計画」はRX-00 ジェガン系列の主力MS。UC計画で誕生したRX-0 ユニコーンガンダムの「変身」機構などにも影響を与えた

■「Z計画」機の配備継続

グリプス戦役に始まった2年間の紛争を生き残った「Z計画」系MSは、連邦軍機として配備が続いた(一部ガンダムタイプなどを除く)。「Z計画」系MSだけで編制された部隊もあったという。



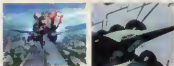
メタス系のガンキャン・ディテクターやZ系のZプラスなどが小改修を受け、U.C.0090年にも配備状態にあった。



MSZ-010S
ZZ-GR

■可変MSへの新たなアプローチ

第二世代型への回帰が主流になる一方で、連邦軍は可変MSの研究も続行。連邦軍の依頼でAEが開発した可変MSデルタプラス、Zガンダムの量産化を試みた半可変MSリ・ガシィが知られる。



デルタプラスは旧式の原型機デルタガンダムを新技術で再現した機体といえる。リ・ガシィはオプション装備で変形。



MSN-001A1
デルタプラス

RGZ-91
リ・ガシィ

■「Z計画」の技術を導入した非可変MS

非可変MSへの直接的影響としては、コア・ブロックシステム採用のサイコフレーム試験機ナラティブガンダム、建造に際し「Z計画」系MSの部材を転用したガンダムがあるといわれる。



ナラティブガンダムはZガンダムの影響を受けた可能性が指摘される。ガンダムの部材流用はコスト削減が目的だ。



RX-9
ナラティブガンダム

RX-93
vガンダム

■Zガンダムの本格的量産化

メタス(ZII)方式の懸架変形機構、ジェガンとの部品の共用化などにより、Zガンダムの宇宙用量産可変MSにあたるリゼルが誕生した。大気圏内用量産可変MSのアークシヤも実用化された。



リゼルC型のウインクユニットは旧式、ディフェンサーユニットは試験機2Gディフェンサーの影響が顕著である。



RGZ-95
リゼル

RA5-96
アークシヤ

TECHNOLOGY INFO

ネオ・ジオンの第四世代MS

「Z計画」において、AEがZZガンダムやSガンダムといった第四世代MSを完成させるなか、エーゴと連邦の対抗勢力であるネオ・ジオンでも第四世代MSの開発が進められた。AEの第四世代MSが変形・合体式だったのに対してネオ・ジオンは非変形式としており、火力とサイコミュの量産こそ共通していたが設計・運用思想は異なっていた。

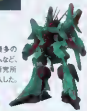


ネオ・ジオン東部の巨大MS・NZ-000 クィン・マンサも第四世代的機体。メガ粒子砲両翼による防御力にも優れた。

AMX-014

ドーン・ウルフ

第四世代MSとしては量産の生産数を誇る。インコムなど、連邦系ニュータイプ研究所の技術を積極的に導入した。



AMX-015

ゲーマルク

複数のビーム兵器を搭載した第四世代MS。ニュータイプ(強化人間)専用機で、ファンネルの搭載数も多い。

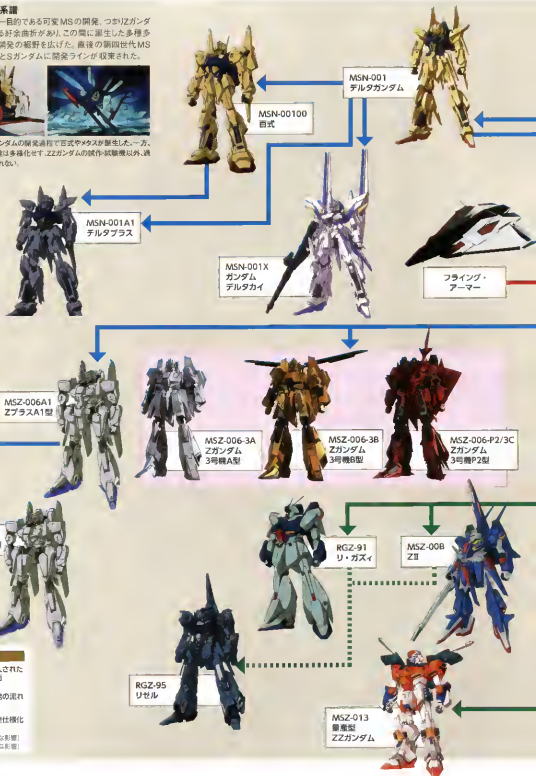


■「Z計画」の系譜

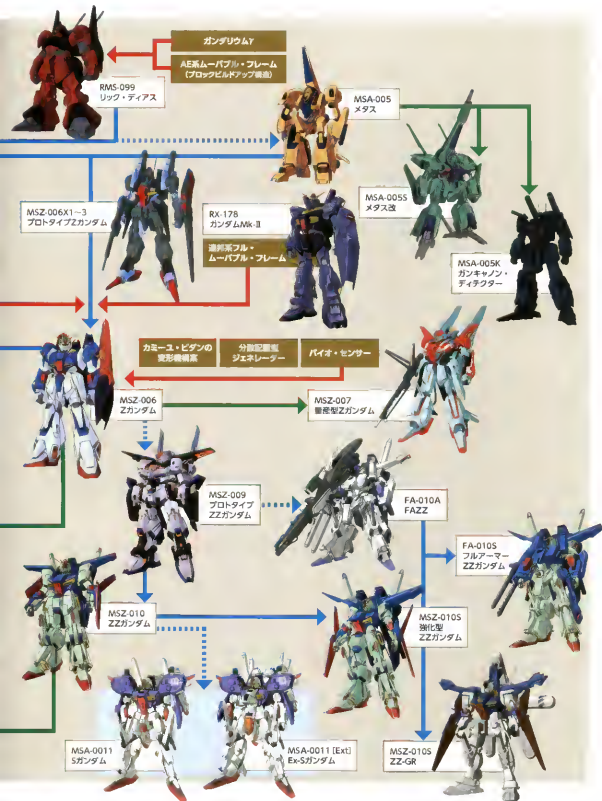
「Z計画」では第一目的である可変MSの開発、つまりZガンダムの開発にいたる紆余曲折があり、この間に誕生した多種多様なMSが研究開発の範囲を広げた。直後の第四世代MSではZZガンダムとSガンダムに開発ラインが収束された。



第三世代MS=Zガンダムの開発過程で巨式やメタスが誕生した。一方、第四世代MSの開発は多様化せず、ZZガンダムの試作・試験機以外、過激なMSは見られない。



※実用は「画面的な影響」
※開発は「間接的な影響」



GUNPLA Generation

ガンプラ ジェネレーション

vol.30

MSZ-010 ダブルゼータガンダム
『機動戦士Ζガンダム』の続編『機動戦士ΖガンダムZZ』の主役機ゆえに、数々の足跡の下にデザインされたガンダムタイプMS。その足跡は、ガンプラ展開の上でもやはりつきまとうこととなった。

異様にまでに複雑化したデザインに大混乱

前作の主役機ゼータガンダムが可変MSであったがゆえ、番組企画当初、その続編の機体環境もダブルゼータガンダムが可変MSである旨が絶対視されたことは理解できよう。が、問題は「ゼータガンダム以上にスーパーな可変MS」が至上命題と化してしまい、結果的に単純な変形ではなく「コア・ファイターを含む派手な形態3機が確立した変形・合体し、MS形態と化す」という、超絶難題が複数のメカニカルデザイナーたち（小林誠氏、岡本英郎氏、明貴美加氏など）に突き付けられてしまった点にあった。

結果的に、最終的なデザインは歴代ガンダムタイプMSの中でも異様にまでにデコデコタイプのものとしてしまい、「どう立体化すれば格好よくなるのか?」という迷宮に突入。そしてその解答は、2010年代にまで持ち延ばされることになってしまう。その点を鑑みると、1986年6月発売 / 価格600円・税別の1/144キットは非変形を選択したゆえにプロポーションも悪くなく、新番組の開始を宣言するスターキットとしてはなかなかよい役割を担ったように感じる。

非変形ではあるものの、ポキキップを使用してMS形態のプロポーションを追求した1/144キット。



1991年7月発売 / 価格1,500円・税別の1/144 ハイグレードモデルはHGは、MS形態のプロポーションはイマイチだったが頭部の差し替えにより各形態への分離変形を実現した。

番組放映終了から「20年以上」を経て
未だ立体的正解の追求領域を残すTMS

左の図に記したように、分離変形合体を前提としたダブルゼータガンダムのリメイク化は1991年7月発売の1/144 HGよりはじまった。そしてその8年後の1999年12月、満を持して1/100 マスターグレードモデル＝MG化がリリースされた（価格4,000円・税別）。すでに旧1/100キットの段階でパーツ差し替えなしの分離変形合体は成し遂げられていたものの、MG準拠に則りMS形態の重厚なプロポーションがより的確に再現され、コクピ



MS形態のプロポーションは大幅に改善されたが、デザイン面の重厚感を強調しすぎた面もある1/100 MG。

ットハッチやバックパックのミサイルポッドハッチは開閉可動式を採用。また、非変形式のコア・ブロックが付属しており、分離変形合体時にはこちらのパーツを使用することも可能だ。

そこからさらに10年以上の月日が流れ、そこでようやく「これぞダブルゼータガンダムの立体的正解値!」的な逸品が発売されるに至る。2010年6月発売の、1/144 ハイグレードユニ



元デザイン面よりもむしろ格好よく見える、1/144 HGのMS形態。非常に見事なリメイクといえよう。



格好なシルエットながら、劇中のワンシーンを模した、ここまで美しいポーズ付けが可能な1/100 MG Ver.Ka。

バーサルセンチュリー＝HGUC化（価格2,300円・税別）。MS形態の良好なプロポーション&アクションポーズと変形を両立させるために、Gフォートレスへの変形は意図的に差し替えた。結果、両形態のプロポーションに安定感をもたらすこととなり、超複雑なデザインのTMSを1/144でキット化するひとつの正解を導いたように思う（もちろん、さらなる極み＝正解を越えた正解を追求するための、1/144 リアルグレードモデル＝RG化への道は残されているわけだ）。

そして2017年9月、アニメのデザイン面を模倣しつつも各部にガンプラ用アレンジが施された、1/100 MG Ver.Kaがいよいよ発売されることに（価格6,000円・税別）。MS形態時における各部の広い可動域の確保と各形態への分離変形合体は当然ながら大前提とされ、その上で、歴代にはこれまでになかった3軸腕を採用、変形機能をもしたまま「腕の折り」「肘屈」を実現。関節部は最新のノウハウを駆使し、複雑な変形を再現しつつ深い「負け」を可能とした。さらに、一部のパーツにエクストラフィニッシュ加工を施し、金属的な重厚感を演出。コア・ファイターは2機付属し、オープニングの合体シーンを再現可能と、驚愕の内容だ。



各所に航空機向アレンジが加えられた、1/100 MG Ver.KaのGフォートレス形態。変形に手数を来さず、フォルムが先出比している。

NEXT MS

次号予告

ISSUE
31

お知らせ

諸般の事情により「ガンダム・モビルスーツ・バイブル」は、しばらくの間隔隔月刊での発売にさせていただきます
次号 第31号の発売は11月26日(火)です

ガンダム試作3号機

GP計画が生み出した、拠点防衛に特化した機体。
スラスターと武器庫の集合体とMSが合体し、
破格の火力と圧倒的な機動性の獲得に成功した。

お買い得な安心！発売日をメールでお知らせします！

発売日お知らせメール

<https://daogostini.jp/eshirase/gms/>

- 戦艦レポート
戦士たちの激突
- MS機体解説
機体解説 武装解説
- 関連MSラインナップ
デンドロビウムと関連機体
- MSパイロット
コウ・ウラキと周辺人物
- MS戦記
デンドロビウム 戦艦の記録
- MS進化論
デンドロビウム 開発系諸国

- メカニック・ジャーナル
GP計画と開発機体
フィールド・ジェネレーター
- カンプラシエネレーション
複雑な面構成による機体を
精密に再現！

第31号

11月26日(火)発売

定価：本体639円＋税

※地域によって発売日が異なる場合があります。
※マガジンの内容が変更となる場合があります。

MAとしての機能を与えられた異形のガンダムタイプを検証！

**ガンダムMSバイブル
専用マガジンケース
好評発売中!!**

通常価格

1,230円

(税別)

定期購読とあわせてのご注文で送料無料!

※マガジンケース1冊に本誌約10号分を収納できます。

※別冊でもご購入いただけます。

贈品に便利な
スタッカー
付き!



**好評
発売中**

**バック
ナンバー
ご案内**



・動1号～第24号も好評発売中 全国の書店で買いまわし

豊富なビジュアルと資料によって、毎号1機のMSを多角的に解説!

GUNDAM MS Bible

Mobile
SAR

ガンダム・モビルスーツ・バイブル

MSZ-010 / ZZガンダム



30

2019.11.26 12.3 合併号

ZZガンダム

ZZ GUNDAM

MSZ-010



Total Height : 21.11m
Weight : 32.7t
Total Weight : 66.4t
Material : Gundarium Alloy
Generator Output : 7,340kW
Thrusters Total Propulsion : 101,000kg



分離・合体機能によって運用性の拡大を目指したガンダムタイプ

